

知って得する医師の話シリーズ70



腎機能検査の話

副院長 大橋 保

腎臓の病気は、糸球体(しきゅうたい)腎炎、糖尿病、高血圧、多発性のう胞腎などさまざまな原因で起こり、長い間続くと腎機能が低下し、最終的に慢性腎不全に陥ることがあります。慢性腎不全がさらに進行すると尿毒症となり透析療法が必要になります。

腎臓病は検尿や血液検査などで診断されますが、尿蛋白などの検尿異常や腎機能異常が3ヶ月以上続くと慢性腎臓病と診断されます。

今回は腎機能の検査で、①血清クレアチニン値と②推算糸球体ろ過量(eGFR)について説明したいと思います。

① 血清クレアチニン値

老廃物の一種であるクレアチンは、腎臓の糸球体でろ過され、尿として体外に排泄されるため糸球体ろ過能力を測る指標になります。腎機能が低下するとクレアチンは糸球体でろ過されずに血中濃度が高くなります。

血中クレアチニン値の基準値は性別によって異なり、男性は0.6~1.1mg/dL、女性は0.4~0.9mg/dLです。

ただ腎機能低下が軽度であるときや筋肉量の少ない場合は腎機能が低下していても正常範囲で推移することがありますので注意が必要です。

② 推算糸球体ろ過量(eGFR)

腎臓のろ過機能を担う糸球体が1分間にどれくらいの血液をろ過し、尿を作れるかを示す数値で、血清クレアチニン値と年齢、性別から計算式で算出します。eGFRは腎機能が低下すると低くなります。

慢性腎臓病の重症度は、eGFRの数値によって6つのステージに分けられます。

- | | | |
|-----|-----------|-----------------|
| G1 | 正常または高値 | : eGFR 90mL/分以上 |
| G2 | 正常または軽度低下 | : eGFR 60~89 |
| G3a | 軽度~中等度低下 | : eGFR 45~59 |
| G3b | 中等度~高度低下 | : eGFR 30~44 |
| G4 | 高度低下 | : eGFR 15~29 |
| G5 | 末期腎不全 | : eGFR 15未満 |

慢性腎臓病の治療はステージで変わり、G1~G4までは食事療法と薬物療法が中心ですが、G5になると人工透析や腎移植が検討されます。

慢性腎臓病は自覚症状が乏しく、知らないうちに進行して、気がついたときにはかなり腎機能が低下していることも珍しくありません。健診等で血清クレアチニン値、eGFR検査が実施されるようになってきておりますので、異常を指摘されましたら放置せずに医療機関を受診して下さい。

大規模災害対応訓練を実施しました

1月30日（月）、今回で9回目となる大規模災害対応訓練を実施しました。

今回は、「南さつま市内において地震によると思われる家屋倒壊により住民が負傷した。」という想定で、南さつま消防署が負傷患者の現場トリアージ訓練及び薩南病院への搬送訓練を、薩南病院が患者受入訓練及び院内トリアージ訓練、並びに患者の病棟搬入に係るベッド状況の確認及びベッド確保の訓練などを実施しました。

訓練には、消防署員17名、薩南病院職員70名が参加し、負傷者を迅速かつ確実に治療するための手順や連携の再確認を行いつつ、全体の流れも滞らせないように、皆真剣に、一所懸命に取り組みました。

今回の訓練を通して、大規模災害が発生した場合の対応を、より具体的に理解することができ、更に改善すべき点についても各自が気付いたと感じております。

去年は、熊本地震災害で多くの方が負傷されましたが、災害はいつどこで起こるかわからないということを念頭に、有事の際においても安定した医療を提供するための訓練を今後も積み重ね、南薩地域の災害拠点病院として、地域の皆様の「安心・安全」に貢献できるように努めてまいります。



△患者搬送



△患者受入



△2次トリアージ



△3次トリアージ（左から赤エリア，黄エリア，緑エリア）



△災害対策本部



△検査（レントゲン）搬送



△消防（現場トリアージ）

平成28年度「入院・外来患者満足度調査」結果

当院では、「患者さんに、より満足していただける病院」を目指すため、毎年「満足度調査」を実施しております。

今回は、「外来」が平成29年1月24日（火）・26日（木）、「入院」が1月23日（月）から27日（金）に調査を実施し、外来患者さん153人、入院患者さん60人からご回答をいただきました。ご協力いただきましてありがとうございました。

患者さんからの主な意見は次のとおりでした。

【外来患者さんからの主なご意見】

- 駐車場がいっぱいでスペースを確保するのに時間を要した。
- トイレ入り口の男性・女性の表示が分かりにくい。
- 時々診察待ち時間が長くなるが説明がない。
- 大きな病院で何かあったら対応してくれるので良いと思う。

【入院患者さんからの主なご意見】

- 途中で暖房が切れて寒い。○患者の気持ちを大切にしてください。
- 部屋にトイレが欲しい。
- みんな親切で安心して入院できます。

皆様からいただいた貴重なご意見につきましては、病院内で十分な検討を行い、今後ともより一層、安心・快適で満足いただける医療の提供に努めてまいりたいと思います。

地域がん研修会及び南薩地域看護管理者交流会 平成29年1月22日（日）開催



当院は地域がん拠点病院として、日頃から地域のがん医療に従事するスタッフに研修の機会を提供し、がん医療の質の向上を図る目的で、研修を企画しております。

今回は、「医療の本質はやさしさ」の理念のもとで、ホスピス・緩和ケア・臨床倫理について取り組んでいる北海道医療大学名誉教授の石垣靖子先生をお招きし「がん患者家族との関わり」をテーマに、南薩地区管理者交流会と協賛して研修会を開催しました。

研修会には74名（8職種）の出席を頂き、アンケート調査により「医療の目的は患者・家族の自由度を上げること」「病気ではなく病気をを持った人として接する」「人間尊重を自分なりに考えていたことを更に深く理解出来た」等多くの貴重な意見を頂きました。

研修会には74名（8職種）の出席を頂き、アンケート調査により「医療の目的は患者・家族の自由度を上げること」「病気ではなく病気をを持った人として接する」「人間尊重を自分なりに考えていたことを更に深く理解出来た」等多くの貴重な意見を頂きました。

今後も、このような研修会を通じて住民の皆様が、この南薩地域で、安心して医療や看護が受けられるように取り組んでいきたいと思っております。



松実会砂像づくりをしました

12月8日（木）病院正面の玄関横に砂像がお目見えしました。

松実会の12月の活動の一環として作成したもので、2017年の干支（酉年）にちなみ、富士山に鳳凰（ほうおう・ひのとり）が羽ばたいているところや、おめでたい松竹梅や門松等が表現されたものとなっています。

患者さん、南さつま市役所の方々、そして当院スタッフも加わり、皆で協力・連携しながら心を込めて作成しました。



○当院の正面図・周辺地図



【所在地】 〒897-1123 鹿児島県南さつま市加世田高橋1968-4

【TEL】 0993-53-5300

【FAX】 0993-53-6764（事務室）、53-5436（地域医療連携室）

☆ 地域医療連携室 相談支援センター（外科外来横）では、患者さんやご家族からのご相談をお受けしております。どうぞお気軽にご利用下さい。

薩南病院の理念

県立薩南病院は、中核的病院として地域医療に貢献し、住民に信頼され、安心して医療を受けられる病院を目指します。

方針

- 1 職員は、常に「患者さんのための病院」であることを自覚し、安全に充分配慮して医療サービスを提供する。
- 2 職員は、常に研修・研究し、医療の質の向上に努める。
- 3 職員は、常に「和」をもって、より充実したチーム医療を実践する。
- 4 県立薩南病院は、常に他の医療・保健・福祉機関と連携し、効果的で最善の医療を提供する。